

## 重戦車が行く '11 春 初日：赤間～門司港 50km

### < 後ろ髪 >

私の頭は、年々大変なことになりつつある。前頭部や頭頂部はすでに哀愁を帯びているが、割にフッサフッサだった後頭部までが薄ら寒くなってきたのだ。

何故か。— 塾生に後ろ髪を曳きまかれるからだ。

我マエダ塾生は、ほとんどが中、低レベルの子だ。私が、「〇月△日からジャーニーランに行って来るぞ。1週間塾は休みじゃ。」と言うと、「えー！こんな私たちを捨て置いて、よく旅に出られるわね。授業についていけないわ。」と恨めしそうな顔で見上げてくる。しっかり1週間分の予習をやらせて行くのだが、それでも「いいのか？」という気分になる。その複雑な思いで、後ろ髪が曳っこ抜かれるのだろう。

還暦間際になって青臭いことを言うつもりはないが、私の生き甲斐は仕事である。毎日の、塾生とのやりとりが生きる糧になっている。ランニングや水泳は、仕事を充実させる手段の一部にすぎない。キチッと練習できれば、その後の仕事にいい状態に入れる。となれば、ジャーニーランも然りなのだが、こいつにはもっと深い意味があるのだ。

私は滅多に仕事を休まない。朝起きて仕事の準備や自分の勉強をし、午後、練習をやって夕方～夜中まで仕事をする。1週間この繰り返しだ。サラリーマンの方々の様に「アフター5」という言葉は、私にはない。世間との接点もほとんどないと言っていい。

いくら私が仕事を好きでも、これでは倦んでくる。情熱が薄れてくる。練習や酒、たまに出るレースでは抜くことのできないモノが溜まるのだ。

どこかで解消しなくてはいけない。違う世界に身を置いて、自分を見つめ直さなければならない、と思い悩んだ。そこで行き着いたのがジャーニーランだったのである。

ヒョンなきっかけから始めたジャーニーランだったが、非現実的な世界に身を投げ、自身をレフレッシュさせるには格好の場所だった。そして、仕事を続ける限りジャーニーランを続ける、と心に決めたのだ。

そうは言っても、1週間も休塾するのは大変なことだ。休む分の補習は予めやっておくのだが、とつても後ろめたい。後ろ髪を引くのは塾生だけではなく、いまいち割り切れない私の気持ちかも知れない。

4月25日月曜日、7:02 佐伯発ソニック14号に乗り込んだ。帽子の後ろ部分

が緩い感じだ。髪の毛のしこがなくなっている。それでも、私は行かなければならぬのだ。「後ろ髪 曳かれ曳かれつ 我行かん」てな心境だった。

10:30 赤間駅下車、駅前広場のベンチで要所にワセリンをぬたくり出発する。直に福岡教育大学前を通過して、国道 3 号線と合流した。右下手に教育大前駅が見えた。以前はこんな駅はなかったのに、新設されたようだ。教育大生には便利になっただろう。大学の位置をこの目で見ておくのは参考になる。

脚は軽い。この冬、しっかり走り込んだからだ。今回は走れそうな気がする。えびつ駅前を通り、間も無く遠賀川に差し掛かった。

今度の旅で、試したいことが一つある。朝食、昼食をバーだけで済まそうというものだ。これだと、朝はコーヒーがあればいいし、昼はお茶か水だけで十分、しかも、歩きながら食べられる。ロスタイムがなくなるのだ。ドカッと座って食べる必要はない。

武器は、万が一の時のためのカロリーメイト一箱とカレーバー、ピザバー、一本満足をそれぞれ一本ずつだ。カレーバーはイケルどころではない。

遠賀川は、飯塚、直方辺りまでは流量が少なくて河川敷が矢鱈に広い川だが、中間からは川幅が 300m 位になる。カレーバーと一本満足を噛みしめながら、この川を渡った。風が気持ち良い。腹も心地よい。かなりもちそうだ。

そのまま進み、JR 黒崎駅を左手に通過した。更に 4km 程進んで八幡駅、スペースワールドが見えた。娘に泣かれてつき合ったこのタイタンは、すげえ怖かったな。

間もなく今日の難関、小倉抜けに入る。予定では、八幡駅を過ぎて 3 号線からズラかり、296 号～270 号を伝って小倉駅の北側に出、199 号（海沿い）で門司港に向かうはずだった。ところが、どこでどう間違ったのか、知らぬ間に 3 号線を走っていたのだ。首尾よく 296 号に入り、シメシメと思っていたのに、その後、綿密に地図を見なかったからだろう。一番通りたくない道に行くハメになった。何事も、最後まで気を緩めてはいけない。

地図で見ると道のりは変わらないのだが、3 号線は混雑した所を抜けており、大きな交差点は、全部歩道橋を越えなければならなかった。階段の上り下りは、ヒイコラヒイコラと脚にくる。

砂津交差点を右折し、バス停で下りた年配の方と 5～6 分、ジャーニーランの話をして、「じゃあ、頑張って下さい。」を励まされて別れた直後、10m 前方下部よりカメラを構えている怪しげな男を発見した。一瞬、SP ナガオカ氏かと疑ったが、彼にしては髪が長いしサングラスを掛けていない。「誰や!!」と大声で誰何しようと思うや否や近づいて来たのは、大分 CTC 時代からの敬愛すべき先輩、栗秋さんだった。門司在住で、JR 九州メンテナンスにお勤めだ。仕事で応援に来れないと言っていたのに、どうしたのだろう。

「仕事が午前中でオフになり、下の道（199号）を探しても見当たらないので、この辺だろうと見当をつけて張っていた。」ということだった。ありがとう！

なんと、初日からサプライズとはね。この旅もいろいろあるのかいな。

その後、門司駅まで行き、駅構内を通過して199号に下りた。弩フラットだった。彦島がすぐそこに見える。もう走る必要がなかったため、栗秋さんに残り5kmの歩きをつきあってもらった。せっかく伴走に来て頂いたのに、申し訳なさ過ぎだ。「勝手我儘ですみません」だった。

関門人道トンネルは2度走っているが、私は閉所恐怖症気味で、今にも水圧でトンネルが潰れはしないかと気が気でなかった。それで、門司港からはボートで唐戸に渡ることにした。

栗秋さんに見送られてボートに乗る。たった5分間の船旅で本州の土を踏んだ。これで一応九州一周は終わった。厳密に言えば、日向住吉～南宮崎13km（08春『雨は心まで濡らす』参照）が残っているが、いつでもカバーできよう。

栗秋さんが、私が傘を持っているのを見て、「やっぱり要るのか？」と訝ったが、昨春の経験から、「絶対要ります！」と力説した。その時は、この旅が雨との戦いになろうとは、つゆ知りもせずに。



< 栗秋さんと門司港にて >